

テーマ①：みんなどうしてる？～悩みや工夫を交流しよう～

テーマ②：オンライン版「親プロ」についてどう思う？～今日の体験をどう活かす？～

○肯定的な意見

●悩みや課題

## 《情報交流のまとめ》

### 1. コロナ禍の「親プロ」について

#### 《実施状況》

- 小学校、中学校の参観や懇談は、中止が相次いでいるが、小規模校は8月より実施している。保育園などコロナで休園が無かった所は、コロナ以前と特に変わりなく依頼があり実施している。
- 今年度実施2回。えんたくんを作成し、ディスタンスを保つツールとして導入した。
- 福祉課や保健医療課と連携して類似した事業をそちらの方に移行させてもらっている。生涯学習課でオンラインでの子育てセミナーなどを企画したり、他の課で子育てオンラインなどを試みたりしているが、希望者が少ないようである。
- 今年度はまだ実施していない。
- 対面は自粛しているので「親プロ」はあまりしていない。
- 学校のクラス単位での活動が多かったため、今年は呼ばれることがない。

#### 《実施予定》

- 今までコロナで様々な事業が開催できておらず、(小学校のPTAで開催予定のものはすべて中止になった)ようやく10月に子育てサロンを開催予定する予定である。マスクの着用や手指の消毒、部屋の換気に注意して開催しなければならない。
- 「親プロ」ファシリテーター養成講座を行ったが、講座を開けずせっかく受講した人の活躍の場がなかった。今後開催の事業は学校で1クラスを2つに分けて行う予定。ファシリテーターはフェイスシールドを装着することとしたのだが、開催する方も参加者も不安である。

#### 《近況報告》

- おしゃべり広場(財団)はニーズがある。
- こんな時だから、学びより、気軽に話したいという意見が多い。
- 乳幼児健診に行って、企画してほしいと提案してきたばかりだが、そもそも「親プロ」を知ってもらえていない。
- 最近、若いママたちはコロナのことをあまり気にしていない様子である。
- 最近は通常通りの活動をするようになってきた。消毒や手洗いうがいなど気を付けてするようにしている。
- 気になる人は自分で欠席するし、みんな自己管理をしている様子である。
- オンラインの需要が薄まっているように思う。
- 小学校などでは、子供はマスクを常につけていることは負担なので、外すときは話さないという約束をしているようである。
- 学校によっては、トイレは休憩時間に行く決めてしまうと混雑するので、時間を定めず分散させているところもある。

## 2. 対面型「親プロ」について

- 1部屋○人などの決まりがあるような所ではそれに従い少ない人数でも実施していく。
- 尾道市のようにえんたくんを使ってディスタンスを保ちながらの実施を考える。
- えんたくんもどきを使って、実際にしてみた。ディスタンスがとれるので、やりやすかった。
- サロン時に床に敷くマットを今まではくっつけて実施していたが、自分の座る場所を明確にすることで密を防げた。
- 現在は密を避けるため、時間は60分以内で、グループ分けをしないで実施している。
- いつもより大きめの会場で実施した。
- 参加者の方もかなり意識はされているように思う。
- おもちゃの共有やお茶タイムをやめた。
- 「親プロ」は寄って話す内容なので、サブを入れずメインのみが実施している。
- 換気、消毒を徹底した。
- 付箋を使って話し合うところをファシリテーターが一人ひとりに声をかけるようにして実施している。
- マスクを付けたままだと、表情が分かりづらいため、フェイスシールドの活用が有効だと思う。
- 少人数での講座を開催する。
- 1グループの人数を少なめにし、向かい合わないように席を配置した。
- 講座開催時におけるコロナ対策について、ガイドラインがあれば良い。
- 「参加の声かけ」で内容をあらかじめ知らせる。
- 時間を短縮して共有するために、参加者と距離が離れていても目を見ると繋がれる。皆に話をふって繋ぐようにしている。
- 主催者に聞いて展開案をつくるので、どのくらい延びてもいいか事前に聞いておく必要がある。終わりの時間をきちんと守ることが「親プロ」をする場合一番大事。
- コロナの影響により制限はあるが、3密を遵守しながら今後の行事を行っていきたい。
- 少人数ならある程度対策できるが、人数が多いと会場も広くする必要があり難しい気がする。
- 感染予防のマスクで、参加者同士の表情がわかりづらいかもしれない。
- 「親プロ」はグループワークが基本なので配慮が難しい。離れすぎると声が聞こえない。
- ファシリテーターをする時にフェイスシールドの使用を考えたが、声が届きにくくマイクの使用が困難など問題もある。
- 海外や県外（コロナ患者が多い地域）から家族が戻ってきた時、経過観察のため参加しようか迷った。

## 3. オンライン版「親プロ」について

### 《参加の幅の広がり》

- 外に出るのが辛くて本当に困っている状況の人にオンラインで届けることができればよいと思う。
- 支援が届きにくい人こそオンライン開催の需要があるかもしれない。
- 若い保護者には参加負担も少なくよいと思う。ネット環境を整える必要がある。
- 若いお母さん方は、オンラインの方が好都合の可能性もある。（子連れで外出しなくても良い。対面よりも悩みを打ち明けやすいなどの理由で。）
- オンラインにすることで、子供がいて外に出にくい人でも参加しやすいため、取り入れたい。
- 自宅でできる。子供が寝た後でも可能。家事などをしながらでも参加できる。
- 幼い子供さんがおられても参加できる。
- 移動時間を他に活用できる利点がある。

- 遠方の方との「親プロ」もできるので便利。
- 通常の「親プロ」時、天候によって参加者が少なくなることもあるので、オンラインだとどのような状況でも参加できるので良い。
- 準備をして、会場に向くと考えると足が重くなるし、会場が遠いといい研修だと思っても参加を考えてしまう。
- 自分自身も内気なので、オンラインでまず参加経験をするとそこが入り口となって対面グループワークも参加できるようになるかもしれない。
- 仕事をしながらのファシリテーターにとっては、非常にやりやすいと思う。
- オンライン版は、つながりのきっかけになるのではないか。
- コロナ対応について、まだ被害が少ないので、今後のことを考えると備えは必要。
- コロナだからではなく、需要があればオンライン開催をすすめていくのも良いのではないか。
- スマホやパソコン操作に慣れている人たちにとっては、参加しやすい。
- オンラインを行いたくても、家にWi-Fiがないなど、系統的に困難で参加できない人もいる。そういった場合は、今日のようにそれぞれが家で行うのではなく、子育て支援センターなど何か所かに拠点を設けて集まり、そこからオンラインで繋げて実施する方法も良い。
- 高校生とオンラインで出来るか、検討してみたい。

#### 《ネット環境・パソコン操作に関する課題》

- 参加者よりも主催者側がオンラインに不慣れであり、開催のハードルが高い。
- オンラインは伝わりにくいので使わないようにしている。例えば、機器の使い方などストレスが多い。
- 機器を使えるか使えないかの環境的な課題はある。
- オンラインもいいが、上手に使えるようになるまでに時間がかかる。
- 参加するつもりでも当日の電波の状況によっては参加できないこともある。
- 時間にタイムラグがあるのでスムーズな話し合いは難しいかもしれない。
- 個人が準備しなければならないものが多いので難しい方もいる。
- ツイッター、インスタで発信する件については、自分自身がしていない。
- 子供がパソコンを触ったりするので、参加者が集中できないのではないか。
- オンラインで実際に悩みを相談している。若い世代は、ネット配信等難なくこなすが、実施側が操舵手順などネット環境を理解する必要がある。
- オンラインで講座を実施する場合、今日のようにZoomの機能を操作したり仕切ったりする人がいないと成り立たないため、ファシリテーター以外にそういったスキルがある人が必要だと思った。
- ファシリテーターのオンラインのスキルアップが必要。参加者が使いこなせても、主催者やファシリテーターが使いこなせないといけない。
- やりづらさ、慣れていないことへの工夫が大切。
- 若い人のほうがオンラインに慣れているので、実施者側がまず、若い人に学びながら慣れる必要があると思う。
- ずっと画面を見るのが疲れる。
- 家の中が映ってしまう。
- セキュリティは安全か。

#### 《「親プロ」としての課題》

- 参加対象が異年齢の場合は、オンラインは難しいのではないか。
- 手が届かないので、個別に寄り添えないもどかしさがある。悩みが深い方がもし出た場合に、事後フォローが

しにくいことが課題である。

- オンラインだと繋がりづくりまではできないと思う。
- 「会う」と「オンライン」とは異なる。
- 悩みが深い人には個別対応は難しい。
- 知り合い同士の人とはオンラインで話ができるけど、初めてコミュニケーションする人同士でオンライン「親プロ」を実施するには難しい。
- グループの構成によって、人間関係ができていない場合は、特に意見交換も難しいのではないか。
- ①のテーマでも発言したように、オンラインでは楽しい内容でも参加する人が少ないのに、しかも、「親プロ」を体験したこともない。さらに知らない人とネットで繋がって意見を出し合って…といった人がいるだろうか。
- 子供と一緒にこんなには話せないかもしれない。子供と関わりながらは少し大変かもしれない。
- 届けにくい人（子育て支援センターなどと交流のない方）にどう届けるかが課題である。

#### 4. R1 新規開発教材「みんなどうしてる？」について

- 今回のプログラムを体験して、子育て支援センターへPRに行ってみようと思う。
- 少人数、短時間だと対面でも感染対策をとっていたらできる。
- 乳児健診時に本のプレゼントをしている。このプログラムは「本」が「話し合い交流」とツールが変わるだけ。目的や対象がはっきりしているから、コロナ時でも健診や絵本待ち時間があるのでできると思う。
- 短時間、気軽の「ちょっと感」がいいと思う。
- 3～4人参加だとえんたくん120cmの活用はいいと思った。
- 砂時計の活用（自己紹介3分などの目安になる）もいいと思う。
- 今回の教材を赤ちゃんマッサージの後のブレイクで使ってみたい。
- 健診の前の待ち時間、健診後の15分で親同士のつながりのきっかけになればいい。
- 自己紹介は、これからの展開での話すきっかけになる。
- 自己紹介の内容は、テーマにかかわったこともあり、背景を自己紹介することになり展開の参考として心情など配慮できる。
- 「親プロ」につなげるためのきっかけづくりになる。
- 話しかけやすい関係になる。
- 参加しやすい。入退場は自由とし、延長する雰囲気であれば継続をすることもできる。しかし一端終わりは終わりとして「切る」ことが大切。
- 参加者は、ハードルが低い。
- 親子の絆づくりプログラム（BP）には来れないけど、少しならいいという人も参加しやすいのでは（気楽さ）
- 紙に書いたものを見せると理解しやすい。
- 話せることは楽しい。それがリアルでの出会いにつながると良い。
- 15分は気軽に良かった。
- 目安として15分は参加してもらい、あとは退出自由などと最初に伝えておく。話したい人は話せばいいし、その後はいつでも抜けられるということを伝えておけば、やってみようかなと思う方がいるかもしれないし、お互い気が楽になる。
- 健診のタイミングでやれるとよい（必要そうな人をピックアップしてもらえるとよい）。
- 今回体験を通じて、話ができることを感じた。
- ミニだと数をこなさないといけない。
- 参加者がある程度、面識があり、職員を知っているとスムーズにいくと思う。全くの初対面では、難しい面が

あるかもしれない。

- 時間が短い間にいろいろなことを決めて進めるのは難しい。
- ファシリテーターが判断して進めなければならない。

## 5. 今後の「親プロ」について

### 《連携・発信》

- 子ども家庭課との連携が必要。
- 子育てサロンの終わりの15分や子育て支援センター、認定こども園の支援室などで実施できるよう、しっかり趣旨説明をして理解を得た上で実施する。
- 時々、子育て支援団体と交流し、子育て事情の現況を把握しておく。交流→情報提供→実施（段階を踏む。）
- 子育て支援拠点「地域すくすくサポート」との連携（参加者の状態、近い人をピックアップできる）。
- 行政のHPなどのカレンダーにオンライン講座を載せて発信する。
- 市のカレンダーなどに、月に数回オンライントーク会を設けて、興味あるテーマには自由に参加出来るしくみを作ると良いのではないか。
- もっと「親プロ」をPRして、何かの取組とコラボするなどかなりの工夫が必要だと思う。  
今回の教材は、サイコロやカードなどで楽しそうだし、短い時間で開催できるので色々な場面で使えると思う。  
せっかく作っていただいた教材を今後活用していきたい。
- 現在は告知をHPでしている。
- インスタグラムなどで発信する。
- ママ友のコミュニティーに向けて発信する。
- 少人数で実施するというのを告知する必要があると思う。
- 講座に参加しにくい場合は、「今年度1歳になる保護者の集まり」や「乳幼児健診後に15分実施する」など気軽に参加できるように周知する方がいい。
- 新型コロナ感染症拡大防止対策を実施していることをアピールできれば、講座参加者も安心して、参加できるのではないか。

### 《実施に向けて》

- 日時について、お父さんが参加できる日時設定をする。（土日、公園に行っている時間等）
- パパ向けもできるのではないか。
- 子育てサークルは事前予約、PTAは1部、2部と時間を分けて実施すれば「親プロ」は実施できるのではないか。
- 「親プロ」の役割を意識しながら、一步を踏み出そうとしている人をフォローする。
- 母親は、悩みを聞いてもらいために実施したほうがいい。
- お母さんの参加しやすい時間設定を考えている。「9時からしませんか」とお誘いしてみる等。
- 参加者の意識や状態が近い方がいい（結局強い人がしゃべってしまう）。
- パペットを使う。
- 参加者の役割分担もそうだが、ファシリテーターの役割分担をどのようにしたらいいのだろうか。

### 《その他》

- 保護者に「答え」を求められるケースが多い。  
具体例）発達障害の子に対する不安感を持っている親が多くなっている。親に発達障害についての知識がない

ことを感じたり、家族間で診断名への意見の相違の悩みなど具体的な相談への対応や、医療的なアドバイスの必要性を感じることもある。「親プロ」ファシリテーターとしては荷が重いし、医療的な専門家でないので「答え」は提供できない。

↓（そこで）

「親プロ」ファシリテーターとしては、保護者が答えを求めたい状態である気持ちに寄り添う。

解決できない悩みを共有できた体験を持ち帰るには、「親」という当事者が3名以上集まることが前提条件  
答えを自分で見つけられるように聴く、寄り添う、包み込みの姿勢。「親プロ」の「寄って、話して」が大事。  
寄り添うときの「コトバ」をファシリテーターで共有し、学び合いたい（学び合いの機会を要望）。

- 「親プロ」として行うのではなく、「親プロ」の要素をもった会を開くことも可能。
- 「親プロ」を必ずしもしなければならないわけではない。様々な場面で、「親プロ」的な要素を生かしていける。  
(具体例) 子育て広場での何気ない親同士の会話の中に、「親プロ」的な要素が出現することがある。「子育ての方法がわからない」という悩みを抱えて、参加された方があった。数回参加し、スタッフの見守りのなか親同士のコミュニティで悩みを共有しあい、自分なりに「今日は子育てが楽しいと思える時間を過ごせた」との体感を持ち帰られた。
- 今年度、ファシリテーターの定例会について、協議事項が無いことから8月まで休止としていたが、メンバーの中には小中学生の保護者もいるので、定例会を開催し、休校に伴う保護者や子供たちの状況や変化について、情報共有しておくべきだった。親子が一緒にいる時間が長くなったため、ギクシャクしてしまうこともあったと聞く。保護者の負担軽減となること等、話ができただけではないか。
- 定例会の目的が講座開催のみとなっていた。本来は近況報告や情報交換の場であることを意識しないとイケなかった。家庭教育支援チームとしての自覚を持たないといけない。
- コロナ対策について、主たる活動ができないこの機会にこそ、事前に話をしておけば良かった。